テクノロジー

□□□□□□□□□□□□□□□10□□

□□□□□□□□□□□□□□

□□□

を含めたコミュニケーション、そして言外の情報の共有を可能にする。

- **#6**周囲の気づきを受け入れる ー 周囲の環境は アジャイル チームに、適切な時期が再度訪れるまで一定の知的作業を手放す事を可能にする。アナログ、デジタルいずれの方法においても、彼らがそれを必要とする時までチームは意識的に情報から距離を置くことができる。

□□□□□□□□□□□

- **#7**リーダーシップをシフトする ーアジャイルの環境においてリーダーシップは、命令から力の付与へ、言い渡しから権限の委譲へ、境界線の創造から障害の除去へとシフトする。リーダー達は異なった方法でコミュニケーションをしなければならない一即ち、完成度が低くともより高い信頼性を持ってその場で物事に対処する事が求められるのである。 アジャイル は権限を与えられた物事の遂行と共有された意思決定を必要とする。
- **#8**大きな見通しを持つ ーより広範な組織が アジャイル の実践を喜んで受け入れる時、アジャイル チームは最も成功する。これは課題を共に生み出し、組織として、そしてサブユニットとして行動する事だ。

□□□□□□□□□□□□

- **#9**集団を一つのユニットとして扱う事 ー アジャイル チームはアイデンティティ、相互依存、共通の価値観と目的を持つ感覚で繋がる仲間の一集団である。従業員達は各々の仕事がどのようにその集団の、そしてより広い組織の仕事と繋がるかを見る事ができる。個人個人と関わりを持つよりも、集団と関りを持つ為に空間を計画し提供しよう。
- **#10**コミュニティーを育む ー大きなコミュニティーの一員だと感じる アジャイル チームメンバーはより満たされ、更に意義深い貢献をする。彼らは自身の専門知識を超えて他者の役に立つーつまり、彼らのスキルと共にグループのスキルをも向上させるのだ。共に歩むことで、チームメンバーは互いの共感を発展させ暗黙の了解を共有する事となる。

□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ Steelcase□ Applied Research + Consulting Steelcase□ Applied Research + Consulting□ □□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

© 1996 - 2019 Steelcase□□□□□□□□□□□□□□□□□□□